

# 令和8年度 事業計画

## 岡山理科大学附属高等学校



経済や社会の急速な変化の中で、たくましく生き抜く若者を育成するため、国を挙げて推進される教育改革の趣旨を踏まえ、本学は建学の理念である『ひとりひとりの若人が持つ能力を最大限に引き出す』教育を進めるとともに、『社会人として社会に貢献できる人材』の養成を目指し、教育プログラムを展開してまいります。



現代社会では、AIをはじめとする科学技術が急速に発展し、それに伴って経済や社会の構造も大きく変化しています。このような状況に対応するため、従来の知識や技能を習得するだけでなく、未知の課題にも柔軟に対応できる思考力や判断力、さらに学びを生かす意欲を育む教育改革が進められています。この改革は、幼稚園から高校にかけて推進されており、大学入試にも反映されるようになりました。

本校は、この教育改革に沿って、生徒ひとりひとりの可能性を最大限に引き出すため、4つの教育コースでの教育活動を続けていきます。これらのコースのうち、グローバルサイエンス、総合進学とスポーツサイエンスの各コースは、加計学園の高等教育機関（岡山理科大学、倉敷芸術科学大学や岡山理科大学専門学校等）との連携による質の高い教育と連携大学へのスムーズな進学を確保します。国際バカロレアコースは、世界で活躍する真の国際人の養成を目標に、国際バカロレア機構が提供する世界標準の教育を本校で実施するとともに、国際バカロレア・ディプロマプログラム認定校として、IBの学習者像を全校で共有しながら、より良い、そしてより平和な世界を築くことに貢献する人間を育てます。

通信制課程においては、国内外からの学びのニーズに応える通信制教育を展開するとともに、加計学園の教育資源を活用した多様で深い学びを提供します。

加計学園は、これからの社会を支える人材を育成するため、学園全体で共有する将来像に基づいた5カ年計画「加計学園ビジョン2026」を策定しています。この計画に沿って策定した「岡山理科大学附属高等学校アクションプラン2022～2026年度」の中期目標・中期計画を達成するため、岡山理科大学や附属中学校等と連携を取りながら、本年度の事業計画として、以下の項目に取り組みます。

### I. 教育の推進

- 1) 加計学園全体の教育資源を有機的に活用した質の高い教育の提供と進路の開発
- 2) 世界が認めるグローバル人材を育む国際バカロレア教育の推進
- 3) 時代の要請に応える国際的な通信制教育の展開

### II. 生徒の支援

- 1) 生徒の多様な資質や希望に応えるコース設計
- 2) 生徒支援・指導体制の充実

### III. 地域社会との連携

### IV. 国際化の推進

### V. DXの推進

### VI. ガバナンス体制と内部質保証

岡山理科大学附属高等学校 校長 近藤 治

# I. 教育の推進

## 1. 質の高い教育の提供に関する目標

中期計画	令和8年度事業計画
<p><b>[1] 質の高い教育の提供に関する計画</b></p> <p>1)加計学園の高等教育機関と各教育コースとの連携について、その実施方法等を評価・検討しながら推進する。</p>	<p><b>ア 加計学園の高等教育機関との連携による質の高い教育の提供</b></p> <p>○岡山理科大学、倉敷芸術科学大学、岡山理科大学専門学校と連携した教育を継続的に進める。</p> <p>○サイエンスワーク2・3については、岡山理科大学への内部進学を視野に、高大連携教育推進委員会での緊密な協議・協力を通じて充実を図る。</p> <p>○DXハイスクールの機能を生かし、サイエンスワークの一環として、岡山理科大学獣医学部（今治市）との遠隔講義を実施する。【新規】</p> <p>○岡山理科大学キャンパスツアー【R7 新規】を継続実施する。</p> <p>○海外大学進学を視野に、岡山理科大学キャリア支援センター（坂本直文教授）と連携し、生徒が「グローバルなキャリア意識」を高める特別授業を実施する。【新規】</p>
<p>2)新しい学力観の養成に即した教育方法や、ICTを活用した授業方法の導入を進める。</p>	<p><b>イ 新しい学力観の養成に即した教育方法</b></p> <p>○教員による説明中心の授業から、主体的で多様な活動を盛り込む授業に転換することで、「学ぶことの楽しさ」「分かることの喜び」を体験させる教育方法を開発する。その一環として、英数学館高校と本校通信制課程が令和8年度から実施する「全通併修」による学習形態を研究する。【新規】</p> <p>○学ぶことの楽しさや学びを通じた自身の変容に気付かせることで、向学心や好奇心を芽生えさせ、学習意欲の向上につなげる。</p> <p><b>ウ ICT活用教育の推進</b></p> <p>○一人1台端末を活用し、情報検索、学習成果や調査結果の整理、プレゼンテーション等の学習活動を支援することで、主体的に情報を活用するための基礎力を育む。</p> <p>○Classiのコンテンツや個人学習用アプリを活用した自学自習の習慣形成を図る。</p> <p>○DXハイスクール事業により整備された環境をより有効に活用する方法を探求し、思考力・表現力等を育成する授業を展開する。【新規】</p>
<p>3)教育改善の効果を、大学進学や進路の開拓、各種資格の獲得などで指標化して確認する。</p>	<p><b>エ 進学指導プログラムの充実</b></p> <p>○岡山理科大学原則内部進学保障を見据え、生徒一人一人の入学時の学力を最大限に伸ばす指導方法を研究する。(基礎学力診断テスト等外部模試データを指標に、卒業時までの基礎学力「伸び率」を最大化し、上級学校での学修に対応。)【新規】</p> <p>○本校独自の「校内実力考査兼学校推薦選抜テスト」を活用した特別推薦入試（附属校・系属校選抜）により、岡山理科大学への進学者を80人に増やす。【新規】</p> <p>○獣医学部の特別推薦入試枠を活用した進学者を1人輩出する。【新規】</p> <p>○教職員向けの特別選抜用進路指導力向上研修講座を（オンラインで）開催し、組織的な進路指導力を向上させる。【新規】</p>

中期計画	令和8年度事業計画
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自習室 (SCafé) 【R7 新規】での個別質問対応チューターとして、岡山大学生を雇用・活用する。</li> <li>○英検、漢検を含む資格取得を推奨する。</li> </ul>

## 2. 国際バカロレア教育推進の目標

中期計画	令和8年度事業計画
<p><b>[2] 国際バカロレア教育の推進</b></p> <p>1)国際バカロレア教育で大きく育つ入学生の確保を進める。</p>	<p><b>オ 国際バカロレア教育(IB) 入学生の確保</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○オープンスクール等の機会を活用し、国際バカロレアコースに係る広報活動を積極的に展開する。</li> <li>○IB コース卒業生による成果発表会を通じて、IB 教育が育成する学習者像への理解を県内外の中学校3年生及びその保護者に広げる取組を進める。</li> <li>○文部科学省 IB 教育推進コンソーシアムの企画と連携し、普及活動を推進する。</li> </ul>
<p>2)定期的な研鑽機会の確保等により、担当教員の指導力の向上を進める。</p>	<p><b>カ 国際バカロレア教育担当教員の定期的な研鑽機会の確保</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○国際バカロレア機構 (IBO) が開催する教員研修会へ定期的に参加する。研修参加者との情報交換を通じて、国際バカロレア教育の考え方や教育方法に対する担当教員の理解や認識をさらに向上させる。</li> <li>○IB 教育を実施する他の学校や、IB 教員を養成する大学のコースから教員や実習生を受け入れ、本校の授業評価や意見交換を行う。</li> </ul>
<p>3)国際バカロレアの教育方法についての校内教員研修 (他コース担当教員対象) を進める。</p>	<p><b>キ 国際バカロレア教育 (IB) 理念などの全校的普及</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○国際バカロレア教育5年目認定評価 (2023年度) で示された指針に基づき、IB 教育が目指す全人教育や教育方法を他のコースにも広めるため、IB コースの授業を他コース教員に公開し、全校での研究協議を年1回開催し、その成果を全コースの授業改善に活用する。【新規】</li> </ul>

## 3. 国際的な通信制教育の展開の目標 (通信制課程)

中期計画	令和8年度事業計画
<p><b>[3] 国際的な通信制教育の展開の計画</b></p> <p>多様な学習者の学びのニーズを評価・検討し、教育プログラムの向上を進める。</p>	<p><b>ク 国際的な通信制教育の展開</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○時代の要請に応える国際的な通信制教育を構築していくために、広報活動や履修者への聞き取りを通じて学びのニーズを把握するとともに、新たな学びの方法を検討・検証する。</li> <li>○今年度を目途に、真庭地域、福山市内、横浜市内へのサポート校開設準備を進める。【新規】</li> </ul>

## Ⅱ. 生徒の支援

### 1. 生徒の多様な将来像に応えるための目標

中期計画	令和8年度事業計画
<p>[4] 生徒の多様な将来像に応えるための計画</p> <p>生徒が持つ将来像について、体系的に学習し、体験する機会を提供し、各自のキャリア実現に求められる学力や能力を育成する。</p>	<p><b>ケ 生徒の多様な将来像に応えるための方策</b></p> <p>○2年生のコース別研修や長期休業中におけるキャリア教育の一環として、職場訪問を実施する。このような多様な社会体験を通じて、社会人として必要な知識や技能を身に付け、実社会で生き抜くために役立つ多様な能力を養成する。</p> <p>○キャリア教育の一環として、各学年の生徒を対象に進路ガイダンスを実施し、進路情報の提供を行う。</p>
	<p><b>コ 部活動の充実</b></p> <p>○部活動は本校にとって重要な活動であることに鑑み、引き続き、更なる環境整備の推進や活性化に向けた方策案の検討を行う。</p> <p>○運動部活動及び文化部活動の入部促進を図る。</p> <p>○適切な部活動を推進するとともに、体罰・ハラスメント等の根絶に取り組む。</p>

### 2. 多様な生徒の支援に関する目標

中期計画	令和8年度事業計画
<p>[5] 多様な生徒の支援に関する計画</p> <p>健康管理や学校生活及び家庭生活における具体的な相談や指導に対応するため、生活支援体制を更に充実させる。</p>	<p><b>サ 教育相談体制の充実</b></p> <p>○多様な生徒のニーズに応じた、細やかな教育指導と生活指導の充実を図る。</p> <p>○生徒一人一人の養育歴や家庭環境に配慮し、保護者と連絡を取り合いながら、最適な指導方法を検討する。</p> <p>○必要に応じて、外部機関と連携を取りながら、生徒を見守る。</p>

## Ⅲ. 地域社会との連携

### 1. 良好な社会的関係構築に関する目標

中期計画	令和8年度事業計画
<p>[6] 良好な社会的関係構築に関する計画</p> <p>学校行事への招待などによる地域交流、校外清掃などボランティア活動等、地域コミュニティとの関係を維持・発展させる活動を行う。</p>	<p><b>シ 良好な社会的関係構築を図る方策</b></p> <p>○コース別研修を利用し、地域に貢献するボランティア活動を実施する。</p> <p>○家庭と連携し、県や市が主催するコミュニティー活動や地元の町内会活動など、校外の様々な活動への積極的な参加を促し、社会の一員としての意識を醸成する。</p>

## 2. 地域教育の目標

中期計画	令和8年度事業計画
[7] 地域教育の計画 校外清掃などボランティア活動や企業の見学実習などを行う。	ス 提携企業等と連携した教育の提供 ○コース別研修や長期休業中におけるキャリア教育の一環として、職場訪問を計画する。多様な社会体験を通じて、社会人として必要な知識や技能を身に付け、実社会で生き抜くために役立つ多様な能力を養成する。

## IV. 国際化の推進

### 1. 国際理解と異文化交流の目標

中期計画	令和8年度事業計画
[8] 国際理解と異文化交流の計画 交流協定による教育プロジェクト、生徒の海外研修などを実施する。	セ 交流協定校との交流 ○韓国やタイなどの交流協定校との研修団の相互交流や、関連大学の留学生との交流を実施し、生徒が積極的に参加できるよう促す。

### 2. 国際的な教育の目標（通信制課程）

中期計画	令和8年度事業計画
[9] 国際的な教育の計画 対象国での広報活動の展開と生徒の受け入れを行う。	ソ 国際的な教育の推進 ○通信教育を通じて海外の生徒を募集する加計学園の関連校（学校法人英数学館など）と共同で広報活動を展開し、生徒の確保を図る。

## V. DXの推進

### 1. ICT活用に関する目標

中期計画	令和8年度事業計画
[10] ICT活用に関する計画 ICT活用推進のためのFD実施及び各種証明書の申請手続きのweb化を図る。	タ ICT活用に関する方策 ○ICTに関して、年間1回の教職員研修を実施する。 ○高等学校DX加速化推進事業(DXハイスクール)の採択に適合する教育体制の整備を進める。 ○Classiを活用した欠席・遅刻連絡等の業務改善を引き続き実施する。

## VI. ガバナンス体制と内部質保証システム

### 1. 学校運営の改善及び効率化に関する目標

中期計画	令和8年度事業計画
<p>[11] 学校運営の改善及び効率化に関する計画</p> <p>校長がリーダーシップを発揮できる環境を充実させるため、組織及び運営の改善を継続的・恒常的に実施する。</p>	<p><b>チ 学園本部及び岡山理科大学との連携会議の設置</b></p> <p>○令和7年度から校長が参画している加計学園の大学情報交換会に加え、学園本部（理事長）や岡山理科大学（学長）との定期的な情報共有及び協働事業を進める会議を設置し、本校の長期ビジョンを検討・策定する。【新規】</p> <p><b>ツ 学校運営会議の強化</b></p> <p>○管理職（校長、教頭、教務や生徒指導などの課長、事務長）が集まり、運営会議を毎週開催する。この会議では、教育課程やカリキュラム管理、生徒指導・進路指導の方針、学校行事・年間計画、予算管理・施設管理、危機管理・安全対策等について審議し、学校運営の重要な事項を決定する。学校運営会議には附属中学校と通信制高校の教頭を招き、これら組織との合理的かつ一体的な運営を進める。</p> <p>○会議で協議した内容は職員会議で全校に諮り、強固な運営体制を維持・継続する。</p>
	<p><b>テ 教科会議の強化・連携</b></p> <p>○指導方法や評価方法等の継続的改善を図る教科会議を年2回以上開催する。【新規】</p>
	<p><b>ト 情報共有の強化</b></p> <p>○職員会議に加えて、Classi やメール、校内情報サーバーを活用し、教職員間で緻密な情報共有を図る。</p>
	<p><b>ナ 校務横断的な取組み</b></p> <p>○教員が複数の校務分掌を担当することで、業務の理解を深めるとともに、業務負担の分散化・平準化を図る。</p>

## 2. 教育の質保証に関する目標

中期計画	令和8年度事業計画
<p>[12] 教育の質保証に関する計画</p> <p>アクティブラーニングの導入やIB教育の理念を取り入れた授業を実施することにより効果的な教育方法・教育内容を充実させる。</p>	<p>ニ 授業改善の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○学校現場で求められるリーダーシップを向上させるために、教員には年1回以上の校内外の研修やワークショップへの参加を促し、個々のスキルアップを図るとともに、組織の一員としての自覚を高める。</li> <li>○国際バカロレアの教科担当者には、定期的開催される研修や各種勉強会への参加を推奨する。さらに、外部団体が主催する教科指導に関する研修への参加も強く勧める。</li> <li>○校外研修で得た情報は、年2回以上開催の教科会議等を通じて教員間で共有する。</li> <li>○定期的に教科会議を開き、教科指導に関する課題の検討や情報交換を進める。</li> <li>○教員間で相互に授業見学を実施する週間を年1回設けることで、授業改善を進める。</li> <li>○「主体的に学習に取り組む態度」の育成に向けて、「キャリアパスポート」を活用し、生徒自身による「学習過程の振り返り」を行う。（「振り返りの習慣」を作ることで、高校卒業後も自らの力で非認知能力を高めることができるようにする。）【新規】</li> </ul>

## 3. 内部質保証に関する目標

中期計画	令和8年度事業計画
<p>[13] 内部質保証に関する計画</p> <p>内部質保証を充実させ、組織運営の改善に活用するため、的確な評価指標を設定し、適正な個人評価（教員活動評価）を実施する。</p>	<p>ヌ 内部質保証に向けた学校自己評価の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○附属高校の教育の質を共有・改善するために、学校自己評価の項目と「令和8年度事業計画」の内容とを整合させることで、PDCAサイクル確立に向けた学校自己評価を進める。【新規】</li> </ul>
	<p>ネ 教員活動評価</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○教員は年度当初に、「令和8年度事業計画」の内容と整合させた具体的な取組目標を設定し、年度途中と年度末に自己評価を行うことで、教育の質向上を図る活動を実施する。</li> </ul>

#### 4. 財政基盤の強化に関する目標

中期計画	令和8年度事業計画
<p><b>[14] 財政基盤の強化に関する計画</b></p> <p>経費を抑制するため財務情報等を活用し、財務分析を行うことにより業務の現状を検証し資源配分の重点化や経費削減など、より一層の効率化を実現する。</p>	<p><b>ノ 財政基盤の強化</b></p> <p>○円滑な学校運営を進めるため、定員の確保を最優先課題とし、本校の教育への取組やその特徴を引き続き広報する。</p> <p>○本校教育の取組成果や状況等について中学校の進路指導担当者や塾教員からの御理解をいただき、受験者及び入学者を安定的に確保する。</p> <p>○財政的に強固な組織を構築するため、将来を見据えた改革と選択を進めるとともに、人件費、教育研究経費、管理経費の適正化に取り組む。</p>

主な行事予定（令和8年度）	
4月8日（水）	始業式
4月9日（木）	入学式
4月12日（日）	前期入学式（通信）
5月16日（土）	PTA 総会
7月12日（日）	後援会総会（通信）
7月17日（金）	全校集会
8月28日（金）	全校集会
9月13日（日）	前期卒業式（通信）
10月2日（金）	文化祭
10月4日（日）	後期入学式（通信）
10月5日（月）	体育祭
12月23日（水）	全校集会
1月28日（木）、29日（金）	選抜1期入試
2月19日（金）	選抜2期入試
2月27日（土）	卒業式
3月7日（日）	後期卒業式（通信）
3月19日（金）	終業式

## 学生数・教職員数

### ■在籍生徒数

(令和8年5月1日現在)

課程・学科・コース名			入学定員	入学者数	収容定員	在学者数
全 日 制 課 程	普 通 科	グローバルサイエンスコース	100	362	1,200	954
		総合進学コース	200			
		スポーツサイエンスコース	80			
		国際バカロレアコース	20			
	全日制課程 計		400	362	1,200	954
通信制課程 (広域) 普通科			-	-	600	255
総 合 計			400	362	1,800	1,209

(単位：人)

### ■教職員数

(令和8年5月1日現在)

校長	副校長	教頭	教諭	教員 計	事務職員
1	1	3	62	67	11

(単位：人)

## 財務関係

### ■事業活動収支

(単位：千円)

科目		年度	令和8年度 予算額	令和7年度 決算額
教育活動収支	収入	学生生徒等納付金	703,617	632,073
		経常費等補助金	314,684	320,980
		その他収入	52,375	40,020
		計	1,070,676	993,073
	支出	人件費	739,682	749,263
		教育研究経費	385,101	318,611
管理経費		154,502	227,127	
その他支出		0	416	
計	1,279,285	1,295,417		
教育活動収支差額			△ 208,609	△ 302,344
教活外	収入	受取利息等	534	325
	支出	借入金利息等	4,269	4,470
	教育活動収支差額		△ 3,735	△ 4,145
経常収支差額			△ 212,344	△ 306,489
特別	収入	資産売却差額等	0	11,739
	支出	資産処分差額等	0	35,447
	特別収支差額		0	△ 23,708
基本金組入前収支差額			△ 212,344	△ 330,197
基本金組入額合計			△ 94,320	0
当年度収支差額			△ 306,664	△ 330,197

### ■施設設備整備計画（抜粋）

生徒、教職員の安心安全な環境を確保できるよう、施設設備の更新を計画的に実施する。

主な施設関係

(単位：千円)

事業名	金額
笹ヶ瀬雨天練習場人工芝敷設等工事	9,990
第12校舎3階トイレ便器改修工事	717
第8校舎耐震補強設計業務	3,850

主な装置・設備関係

(単位：千円)

事業名	金額
研修館自動火災報知設備更新	1,600
御津国際交流会館新館エアコン更新	976
笹ヶ瀬グラウンド 製氷機	2,300